

2007(平成19)年度 法学既修者選考試験問題

民法

(120分、総点150点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

**注意**

1. 問題用紙は、表紙をふくめて4ページで、問題は3問ある。
2. 解答用紙は3枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題用紙及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

## 第1問

被保佐人のAは、所有する唯一のめぼしい財産である甲地を保佐人Bには無断でCに売却し、C名義に移転登記がなされた。それを知ったBはこの売買契約を取り消したが、登記名義がAに回復される前に、CはDに甲地を転売し、DはさらにEに転売して移転登記もなされた。この場合、CD間の売買は、CがAにこの土地を取り戻されたくないために知人のDに頼んでその了解のもとに行われた仮装売買であったとする。AはEに対して甲地の返還を請求できるか。(50点)

## 第2問

Y社の中間管理職であったAは、同社の生産性向上と雇用削減のあおりをうけて、ここ数ヶ月、直属の上司Bの指示により、毎月100時間を超える残業を強いられ、週の平均労働時間も70時間を超え、脳出血を起こして死亡した。

(1) Aの唯一の相続人である妻Xは、Yに対し、不法行為に基づく損害賠償を請求するか。考えられる法的構成を複数紹介し、それぞれの当否・長短を論ぜよ。(30点)

(2) 本件において上記XがYに対し、債務不履行を理由とする損害賠償を請求することはできるか。その場合、不法行為に基づく損害賠償請求の場合と比べて、どのような点に差異が生ずるか。(20点)

第3問

Aが6000万円を遺して死亡した。

(1) Aの相続人が、妻B、Aと父母の双方を同じくする兄C、Aと父母の一方のみを同じくする妹Dの3人であったとき、B、C、Dの相続分はいくらか(なお、どのようにして答えを導き出したか、説明文も記載すること)(10点)

(2)(1)の場合において、B、C、Dそれぞれの遺留分はいくらか(なお、どのようにして答えを導き出したか、説明文も記載すること)(10点)

(3)(1)の場合において、Bが法律上の妻ではなく内縁の妻であったとき、BはAの相続人に対して、相続、財産分与その他なんらかの権利を主張することができるか。

(30点)